

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490300080
法人名	特定非営利活動法人 日本ライフ協会
事業所名	グループホーム 陽だまり長屋鈴鹿
所在地 (電話番号)	鈴鹿市秋永町2092番地 (電 話) 059-380-5586

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 3 月 10 日(火)

【情報提供票より】(H 21年 2月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円		その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 無		有りの場合 償却の有無		有 無
食材料費	朝食	350 円	昼食	600 円	
	夕食	500 円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,450円				

(4) 利用者の概要(2 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低 62 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いちかわ内科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鈴鹿市の南部に位置し、津市(河芸町)と境界地にグループホームがある。同一敷地内にデイサービス、ショートステイが建てられグループホームは平屋建てで、両方とも民芸調の真新しい建物である。グループホームは20年4月に開所され、併設のデイサービス、ショートステイは19年8月開所された施設である。開所して一年、利用者、職員が事業所の生活に馴染んできたところであり、これから研修はじめ中味の充実にむけて取り組みたいと前向きな姿勢である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	本年度が初回の調査である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から職員に聞き取りをし、自己評価をまとめ報告された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	推進会議は2ヶ月に1回開催がされている。事業所のことを知ってもらい、また色々な情報を教えてもらう姿勢で会議が開かれており、活発に話し合いがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族の参加を求めている、意見表出の場になっている。また、面会時などでも気軽に話ができるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周りが畑で、そこで収穫された野菜をいただくこともあり、畑の野菜泥棒の通報をするなど近隣の方と友好的関係ができています。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「誠実で優しい介護を、利用者様には満足を、ご家族には安心を」が事業所の理念として掲げられている。	○	開所してまもなく1年になり、事業所独自の地域密着を意識した理念を職員と共に作られることも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目につく所に掲示され、会議等で管理者から話されることもあり、職員はよく理解し認識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、共同作業にも出ている。周りが畑でそこで収穫された野菜をいただいたり、こちらからお茶を出して一服してもらうなど、交流がある。野菜泥棒が出没することがあり、そんな時は通報するなど地域の方と連携をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者から職員に聞き取りし、まとめて報告がされた。本年度が外部評価初年度であり、自己評価、外部評価を全職員で見直し、気づきとして活用していきたいとの思いである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設後2ヶ月に1回、定期的に会議が開催されている。メンバーに自治会総代はじめ園場整備組合長、農地委員が入ってユニークな人選で、幅広く地域の意見を聞かせてもらえる利点がある。事業所のことを知ってもらい、また地域の情報を得る機会でありさらに充実させていきたい思いである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開所にあたり市には諸事指導を受けており、開所後も管理者は市へ出向している。月に1回、市から委嘱された介護相談員を受け入れ、相談が終わった後、出された意見等を相談員から聞かせてもらい、フィードバックして改善につなげている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は面会時に家族へ話をし、また体調に変化があった時や利用者が買い物をしたい等々その都度家族へ電話をしている。「陽だまり長屋」通信を隔月に発行して事業所のことをお知らせしている。預かり金があり、利用請求書を送付する時に出納と領収書を添付して家族へ送付をしている。	○	現金預かりに関して、毎月出納を送付されているが、さらに出納帳の原本に家族のサイン(日付入りで)をもらえるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子を知らせたり、要望を聞くようにしている。運営推進会議に家族の代表が参加をしてもらって意見表出の場になっている。	○	重要事項説明書に苦情、相談窓口として市、国保連合会を追記されるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後3名介護職員の退職も含め異動があった。利用者は特に混乱することなくスムーズに生活を送られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所にあたり全員が初任者研修を受け業務に就いている。グループホーム連絡協議会での研修に参加をしている。	○	今後は研修計画を立て、OJTを活用しながら多様な研修をされるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ加入し、今後も他の事業者との交流に取り組んでいく意向である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスから移られた方もあり、見学や体験入居も可能で、利用者は事業所での生活によく馴染まれている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑での野菜作りで利用者から肥料のやり方を教えてもらったり先輩に教えてもらうという姿勢で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れて、生活歴を把握し、毎日の暮らしぶり言葉や表情などから思いや好きなことを聞き取り、申し送りノートに記録して職員間で共有し実現できるよう支援がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートで本人、家族の思い、希望を把握し、毎日の記録や職員から聞き取りをして介護計画が作成されている。入所の初期の段階から生活に慣れてきた段階と、きめ細かく利用者の様子を把握し計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回されており、状態に変化があるときは、随時の見直しがされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の送迎や誕生会に外食をしたり柔軟に支援がされている。また、来る5月には日帰り旅行(セントレアに行く)計画も練られており、民生委員が主催するサロンでの協力などこれらかも前向きな取り組みを考えている。	○	サロンの場所の提供など地域との関わりの構築ができており、さらなる取り組みを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が週に1回あり、健康チェックが万全にされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針を書面で利用者の家族と契約を交わしている。今後、一人ひとりのケースに合わせて対応を考える意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや排泄介助などプライバシーには配慮している。個人情報がかかれた書類等は、事務所に保管がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	かまひ過ぎず放ったらかし過ぎずを心がけている。言葉や様子などからその場その場にあった対応をする支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕の食事は委託業者が調理される。テーブル拭き、配膳、下膳に利用者の出番がある。職員も同じテーブルについて見守りながら一緒に食べている。朝食はパンなど希望を取り入れている。頂き物を使ってのおやつが手作りで出されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日を除き毎日実施している。一人ひとりお湯を交換し、午後2時ごろから5時半までの間でゆっくりと入ってリラックスしてもらう支援をしている。それぞれの好みにあわせた入浴剤が用意されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり入れたり、食事の下準備、食器洗いなど自然に役割ができています。野菜作りや縫い物編み物など利用者が力を発揮している。近くの梅林に行くのも楽しみになっている。夏に中庭でバーベキューをして喜ばれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲が畑なので車の心配が少なく、周辺へ散歩にはよく出かけている。隣接のデイサービスへ交流に出かけることもある。陽気の良い時はテラスへ出てコーヒータムを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられていない。また、管理者も鍵をかける弊害をよく理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設のデイサービス、ショートステイと合同で防災訓練が実施されている。	○	今後さらに地域の方の協力を得て、夜間等も想定した避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託業者の栄養士による献立で提供しており、バランスに配慮がされている。水分補給は、食事やおやつの時、風呂上りや就寝前等々に水分を摂るようにしている。法人で給食委員会を作っておりメンバーとして事業所の職員も参加をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると大きな花器に綺麗なお花が生けられている。天井が高く陽光もたっぷり入って明るく気になる臭いも感じない。大型テレビの前にはテーブルやソファが配置され、畳のコーナーも設置されくつろぎやすい配慮がされている。食卓には早春の季節を感じる花が飾られて職員の心配りを感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にクローゼットが配備され収納されている。整理ダンスや収納ボックスなど持ち込まれ、家族の写真など飾られている方もあり、またシンプルな居室の方もあり思い思いの居室になっている。		